

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	”心生き生き、心楽しくその人らしく”をホームの理念とし、個々を尊重しその人らしく居られるよう個別の対応を行っている。地域に向けた理念の作成が出来ていない	○	地域に溶け込む為のホームとしての理念をみんなで考え、それに向かって意見を出し合い、よりいっそう地域にある意味をみんなで理解し密着型として頑張っていきたい
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新職員が入社した際には理念やホームの取り組みについて簡単ではあるがオリエンテーションを行い、共有に努めている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理解してもらえよう具体的な取り組みは行っていない	○	地域向けの広報誌などを作成していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出来るだけ多くの地域の行事へ参加し顔を覚えてもらう努力をしている。また近所のお店を利用することで、顔なじみになれるよう努めている。	○	今年の夏祭りで行ったバザーのように地域の人が気軽に来所できるような行事を増やせばいいと思う。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内清掃や地藏盆、消防関係の行事など可能な限り参加し、ホームが存在する事やホームで生活している私たちを知ってもらえるよう努めており、今年は夏祭りにバザーを行った。地域行事への参加については入居者全体のレベルが年々下がり、参加できるメンバーがかなり限定されてしまっているのが現状である	○	出向くだけでなく、招くことも必要と運営推進会議からも言われているが、地域との交流を図るための職員体制が今はなく難しい。落ち着いたら地域とどのような関わりを持っていけるかスタッフ全員で考え取り組んで行ったりしたい。

グループホームさくら

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>スタッフの入れ替わりが多く、地域に向けての取り組み等に力を入れる事が難しいのが現状</p>	○	<p>地域にある認知症のホームとして、地域であるべき姿を全体で考え、認知症に対する知識を広めたり、予防になる運動や取り組み等を地域に発信できる場になっていけたらと思う。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>少しずつ、改善に取り組んでいるが、全員そろってという時間を作る事が難しかったりもする。日々の勤務において休憩時間もなく、公休日に会議の為に出勤する事が少しずつスタッフの負担になってきているのが実情である。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議を行うことによって、新たに気付けることが多々ある、会議ではさまざまなことが話し合われているようだが、実際には殆ど生かされていないと思われる等の意見があるが、実際地域の方からの助言を元に、地域への参加やホームでの行事の取り組み方等良い方向へと活かされた事柄もある。</p>	○	<p>自治会長が毎年変わるので協力的な方とそうでない方がおられ理解してもらうまでに時間がかかる。地域啓発などの活動に取り組むための時間が作れない状況であるが、ホームと地域のかかわりを深め、地域の方に理解受け入れてもらえるようになるために考えていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者はホームの運営推進会議のメンバーには含まれておらず、声をかけたりはしてみたが忙しい様子で参加する意向は見られていない。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在必要な方はおらず、機会を設けていない。また、現在スタッフの入れ替わりが激しく研修への参加が難しい状況でもある。</p>	○	<p>知識として学んでおくほうが良いので研修会があるときには参加していきたい</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待に関する研修があれば参加し知識を高める努力をしている。スタッフ同士が互いに注意しあうことで防止に努めている。</p>	○	<p>今後も研修参加を続けていくと共にホーム内の環境改善もしていく必要があるように思う</p>

グループホームさくら

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居の際は、家を訪問し重要時刻説明書、契約書などを読み上げ説明を行っている。その際不安な点や、質問があれば聞き納得いくようお話をしている。契約について管理者等把握している者とできていないスタッフもいる</p>	<p>○</p> <p>スタッフ全員が契約などについても知る機会、勉強会など出来たらしていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>不満や文句は、日常的にありそのつど傾聴しているが、機会は特に設けていない。一対一で関わる時間に会話の中から表してもらっている。現実的にすべての利用者の不満や苦情に応えることは難しいがホーム内の会議で話し合い可能な限り希望に添えるよう努めている</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月ご家族の方には1ヶ月の日常の様子や外出した事の報告、そのときの様子、病院の受診や往診の様子、入居者の担当が変更になった旨など記載しその月の写真も掲載し”おたより”という形で全入居者のご家族へ送付している。また、3ヶ月に一回機関紙の発行もしており、スタッフの退職、運営推進会議の内容などの紹介、利用者のホームでの暮らしぶりを載せている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付報告書を作成するなどして家族からの意見や苦情をすぐに反映させられるよう努力はしているが機会としては設けていない。</p>	<p>○</p> <p>努力はしているが、職員の入れ替わりも多く、介護で手一杯という状況もあり家族会などの集いを作る計画も実施したいがなかなか出来ていない</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一回の一斉会議の場を運営や入居者に関する事等職員の意見や提案を聞く機会としている</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>現在スタッフの入れ代わりが激しく柔軟に対応出来る体制ではない</p>	<p>○</p> <p>実施するには慣れた職員の在籍と人員の増員が必要</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の入れ代わりが激しく、対応できていない</p>	<p>○</p> <p>職員が長く働ける職場環境づくりが必要である</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会への参加には協力的であり、資格取得に対しても協力的であり、機会があれば、研修へ行っているが計画的ではない</p>	<p>○</p> <p>その職員に応じた研修や勉強会が必要。研修などに行くよう指示を出すだけではなく具体的な取り組み方針や意向をもっと示してほしい</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同系列の他施設の管理者やスタッフなどと交流する機会を持ったりはしており、交換研修も行っている。定期的にはないが、他のホームからの研修を受け入れたりもしている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>可能な限りスタッフの意見は個人面談等で聞いてくれるがストレスを軽減する為の工夫や環境づくりまでは対応できていない</p>	<p>○</p> <p>職員が長く働くためにも何か対策が必要</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>行っている</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前には見学をしてもらったり、入所の契約時にはお宅へ伺うなどしてご本人がどんな所で生活されていたのか等を把握するようにしている。リラックスしやすいソファに横に座り話を聞いたり、事務所で話をしたり、姿勢を低くして語りかけるよう努めている。利用者や買い物などで外出する機会があるときは、日々のホームでの生活においての不安や要望を聞けるよう話しやすい場を作っている。</p>	<p>○</p> <p>話を聞く頻度や、かかわりを持つ時間を増やしていきたい</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学の際には、現在の状況等を聞き、困っていることや不安なことを聞くよう努めている。入所後はゆっくりと時間をとって話をする機会がなかなか持てないのが現状であるが、希望にあわせて対応はしている。</p>	

グループホームさくら

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の施設やケアマネージャーとはなしあいから、「ホームを紹介されてきた」という形での見学や申し込みが多いため、このような対応はしていないが、単独でご家族の方・あるいは本人が相談に来られた際には、会話の中で必要な助言を行っている。	○	もっと詳しく”他のサービス”がどうすれば受けられるか勉強していきたい
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が相談し、どうすればより良いサービスにつながるか考え、家族の方に相談し本人にも分かりやすく説明している。可能な方には見学に来て頂き、雰囲気を知ってもらったりしている。入所時新しい家具ではなく馴染みのある落ち着いた空間を作ることを勧めている。また入所後ご家族にも頻繁に来て頂きさびしさを軽減できるよう協力をお願いしている。	○	入所前の条件として必ず利用者本人に見学に来ていただく等の決まりがないので、可能な限りそのような対応も行い、納得した上での入居が可能になるよう対応したい。おやつやご飯と一緒に食べてもらう等してなれる体験時間を作ったりもしていきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のレベルが下がり、介護で手一杯の状況でゆっくり過ごす時間がなかなかないが時間の許す限り個々の性格や好み、趣味に応じて一对一の対応もしている。利用者が昔どのような事に興味を持っていたのか、話を十分に聞いて、その内容を直接本人の指導により教えて頂いたり、人生の先輩として昔の話を聞いたり、戦争の話を聞いたり、昔ながらの遊び、京都ならではの風習を学んだりし、会話にも幅を出す配慮をしてる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来所される度に、最近の様子や言動を話し合い、笑い合える関係が出来ているご家族とそうでないご家族とがある。ご家族の中には支援されることが当たり前の考えをお持ちの方もいらっしゃる、共に支えるという関係が作ることが難しいご家族がある。	○	ご家族にも共に支援して頂く為にプランの実施者にご家族を担当としてプランと一緒に取り組んでもらったりして行く方向でホームからご家族にお願いしたりもするが、まだまだホーム側からの働きかけが必要
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	離れて暮らしていても家族がいつも利用者を忘れずにいることを必要な利用者に対しては都度伝えている。両者のお話を聞きながら、必要なときは橋渡し役となっている。利用者のご家族が安心して一緒にすごせる時間として、行事参加を募ったりしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が昔足を運んでいた場所へ個別外出などで外出企画を立てたりしたが、なじみの人を忘れてしまっているということが病気の進行を早める場合もあり、さける家族もいる。また、馴染みの環境が開発とともに変わってしまい、変わった事からのショックが大きいのではないかと心配するご家族もあり対応できない部分もあるが基本的な考え方としては馴染みの人、場との関係の継続をできるように考えている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者があるべく居室にこもらず、皆と交わるように声をかけリビングにて手遊びなどの交流をしている。散歩、買い物等の外出時、何人かで一緒に出かけ会話が弾む様に努める。ソファに並んで座ってもらい、職員が間に入って利用者同士がうまく交流できるように支援している。また、個別の外出時間をとったりしてストレスの軽減に努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後、ホームで生活されていた時に写した写真をアルバムにして送ったり、その後の様子を電話で聞いたり、年賀状のやり取りをしたりしている。(しかし年賀状等はスタッフの入れ替わりで継続しての実施が難しい状態ではある。)	○	退所後もホーム内行事参加へのお誘いをしたりして継続した交流をして行きたいが、そこまでの余裕が持てないのが実情である
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どうしたら本人が一番今居心地の良い暮らしが出来るかスタッフ間で検討しあっている。本人の意思を聞いたり、意思疎通の難しい利用者の方に関してはご家族からお話を聞き、希望や意向の把握を行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人またはご家族から聴取したり、その時聞き取れない部分に関してはホームで生活する中で新たにお聞きすることもある。どんな会話からもこれまでの暮らし方を聞き、もう一步踏み込んで知ろうとする。今まで生きてきた中で一番心に残っていることを考え今後のサービスのプランを考えている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々に記録を付けることによって24時間の生活リズムがある程度把握できる。いつもと変わった発言等も記録し本人の変化に少しでも気づけるよう努力している。本人が一人にいるとき、不安な表情をしている時は必ず不安を取り除くよう声掛けをしている		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人または家族の方との会話の中で希望、要望となり得る事を聞いた際はそれを活かしている。又、介護計画の作成にあたり家族と直接相談したり、必要に応じては主治医から助言をもらったりしている。	○	ご家族によって意見の多いご家族とそうでないご家族がある為、すべてのご家族から意見を聞けるわけではない。プランを立てるにあたり、直接面談のような形でご利用者の方について今の状態を踏まえたこれからの話や現在の状態に合わせたプラン作成へと繋げて行きたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	目標が達成できた場合、状態に変化がありなおかつ計画の継続が難しい場合本人の状態にあっていないと判断した場合には、必要に応じて見直しを家族になぜ見直しが必要になったかの状況を正しく伝えて理解していただいた上で新たなプランを実行している。定期的に3ヶ月に一度は見直しをしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	良い反応が返ってきたときの声の掛け方や対応の内容を記入したり、いつもと様子が違っている事柄などを記入している。個々の記録は迅速に行い、会議等で話し合いプランを作成の際活かしている。毎日、個別に記録し24時間通して様子がわかり、休み明けで出勤してきたスタッフにも状況がわかるようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家庭的な雰囲気、小規模という点から個々に買い物の希望があったりする場合には個々の希望に合わせて買い物に出掛けたり、ご家族との外出も特に時間の制限など設けず自由に会えるよう柔軟な支援をしている。利用者本人が自分から希望を言えない方に関してはご家族に相談しながら意見を聞き対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホームの行事の際などに地域の方にボランティアとして参加をお願いしたりしている。また、防災訓練などへ参加したり、ホームの消防訓練の際に消防署から指導に来ていただく等して少しずつではあるが地域との交流が増えるよう努めている。	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性がある方は今のところないと判断している。また、サービスではないが地域の老人福祉センター主催のサロンへ定期的に参加して頂いたり、地域の敬老会などへ参加するなど地域の行事を利用させて頂く事で、外との交流を持つ機会を作っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議において地域包括支援センターのケアマネジャーと交流、意見交換をする機会はあるが、利用者のケアマネジメントに関して話し合うことはなく、協働しているとはいえない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に、かかりつけ医をどこにするかという事について、利用者本人・ご家族に意思を確認し、希望の医院を選択して頂いている。提携先病院以外へ通院されている方に関しては、ご家族が付き添われる事がほとんどであり、ホームとの関係を築くことは出来ていない。	○	ホームが提携していない病院への通院に関しても、ホームからご家族へお願いしているわけではなく、必要に応じてスタッフでも対応はしている。

グループホームさくら

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>専門医に定期的に診てもらい本人の状態を正しく把握したい</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化や終末期の事ももっともっと話し合い、そうなった時にホームでどこまで出来るか検討し方針を決め共有する必要がある職員間での話し合いが必要</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>重度になってしまった場合に、まだ入浴が可能な場合は、浴室内が介護用に修繕されていないため入浴介助が困難になる。対応方法を検討しておく必要がある。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりその時の様子に合わせた声のトーンであったり、会話の仕方を心掛け、大きな声で遠くから注意するような発言は控えている。記録を書く際には内容や氏名が周囲から見えないよう配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	同じものを提供するというのではなく、おやつなど色々な種類から自分の好きなものを選んで頂いたりして、自己決定する場を作っている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り行っているがスタッフの人数、通院介助などの都合により、その都度必ず希望を聞くことが難しい状況はある。常の関わりにおいてはご本人のペースに合わせた声かけや、すごし方が出来るよう配慮している。	○ 時間的、人力的余裕が出来るような環境作りが必要
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容店に安心して行ける様、前もって電話をしたり行きたい時期等も希望をかなえる。美容院などの声掛けをして本人の行きたい店に行くようにしている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特定の利用者が調理関係の仕事がされていた事もあり、自分の居場所・役割の場としており他の利用者が取り組むことに抵抗を持つ方がいる為、全員に調理に関わってもらえる時間は少ないが、台拭き・お茶や箸並べなどの食事の用意は色々な利用者に取り組んでもらえるよい声掛けをしている。後片付けも利用者が主体で取り組めるよう対応している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	高齢な為、大部分の方が何かしらの持病があり身体的側面から制限が多いのが実情。我慢している方が多いと思う。身体面ではなく、金銭的余裕の面で嗜好品を控える必要のある方もおり、相談しながら一日の量を決めたりして制限がある中でも出来る限りご本人にも納得してもらえるような対応に努めている。	

グループホームさくら

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を作り個々の排尿間隔など管理している。一人一人時間を決めトイレ誘導し失禁を減らせるようにと努めている。肌荒れや褥瘡が出来ないように、パットをできる限りあてずに早めのトイレ誘導で対応している利用者もいる。利用者個々にあわせて対応は異なるが、できる限りこれまで通りの生活を維持していけるよう排泄面においても対応している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ADLが低下し、毎日の入浴が負担になる方が増えた為、体力的に入浴が負担になる方に関しては2～3日に一回の入浴としているが、本人の体調等に合わせその都度様子を見ながら行っており、入浴日だから必ず入浴、入浴日でないから必ず入らないといった事はない。希望者には毎日入浴していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中でも昼夜逆転にならない程度の休息は自由にしていただいている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理関係のお仕事をしてこられた利用者さんには調理をする事で役割を持って頂いたり、編み物縫い物などが得意な方にはそれをお願いしたりして、利用者一人一人が主役になれる場面を作るよう配慮している。また、ホームに閉じこもり気味にならない様に、近場買い物でも出て行けるように声掛けをしている。個利用者個々に役割を持ってもらい料理、洗濯、食器洗い等してもらっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る限り自分のお財布からお金を支払うという行動を促すが、スタッフに依存する利用者もあり、自分でお金の支払いを避ける利用者もいる。その為ほとんどの利用者が自分でお金を支払うというよりは、スタッフが代わりに支払う形になっている。	○	根気よく買い物に外出の時は支払いを本人にしてもらい、お金の出し入れをしてもらえるよう声かけや取り組みをスタッフ全体で行っていく
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近い場所への散歩、買い物への外出はその都度、行っており、気候の良い日は散歩や外の喫茶店を利用してのおやつタイムをしたりしている。また、帰宅願望などがひどい場合は、スタッフに余裕がある時には一緒について歩きに出て戻ってきたりという事もしているが、スタッフに余裕がなければなかなか出来ないのが現状。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と連絡を取り合い以前暮らしていた所や本人の希望される所への個別外出を行っている。また利用者によっては家族との一泊旅行や食事等の外出もされている。家族も参加してもらっての外出レクを行い、利用者と家族と一緒に過ごせる時間作りをしている。		

グループホームさくら

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望される時に電話をかけてもらったりはがき等の希望があれば書いてもらいスタッフが投函したりしている。また、ご家族の話をして寂しそうにされる利用者の方には「電話したらどう？」と声をかけたりする。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	定期的に来られるご家族があり、いつでも明るく出迎えゆっくりしてもらえるよう声かけをしたり、必要に応じて居室でプライベートな時間を持ってもらえるよう配慮しており、面会時間も特に定めずいつでも気軽に立ち寄ってもらえるように考えている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や虐待の研修に参加はしているが、研修報告を簡単に他のスタッフに伝えるのみで、全員に内容が周知できてはいない。どんな行為が身体拘束であるか具体的に理解できていない職員がいる	○	身体拘束に関する勉強会をホーム内で実施する
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	特定の他者の居室へ入り、室内のあらゆるものを居室へ持って行ってしまう方が現在入所中の為、居室に入られてしまう利用者のご家族に対して了承を得て、日中は(ご利用者本人は殆ど居室に戻らないこともあり)鍵をかけさせてもらっている居室が一つある。その他の居室において、利用者本人が内から鍵をかける以外昼も夜も鍵をかけないが玄関は国道に面しているという点が危険な為かけている	○	特定の居室に入ってしまう方の居室が2階で常にスタッフがいないため、いつ入られるか分からず現在の対応になっているが、出来ればかけずに対応したい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はどの入居者が今どこにいる、何をしているなどスタッフ全員で入居者への目配りし、スタッフ同士で声の掛け合いをしている。出来る限り言葉で行動を抑制したりするのではなく、動きを見守り危険等その場の状況に応じてさりげない声かけを行っている。夜間は2時間おきの巡回をしたり、トイレ時必要に応じて付き添い転倒防止に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人がその物品を必要としている時に危険性のあるものは柔らかく使い方を伝えたり、傍で見守りながら一緒に使用して頂いたりしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態を把握する事に集中し少しでも状況が変われば皆で話し合い伝え合う努力をしている。杖を使用する利用者にはつき方に注意を促したり食事介助を必要とする利用者には食事前の口腔内マッサージを行って嚥下反射が良くなり誤嚥防止に繋がる様に等、少しずつ取り組んでいる	○	すべてのスタッフが実際の援助の意味を理解できているかどうか不明。援助のもつ意味を理解し、より良い介護につなげていきたい。その為には、勉強会が必要。

グループホームさくら

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	以前は救急救命の指導に消防から来てもらったりしていたが、ここ1年間の間では実施できておらず。	○	救急救命講習の受講し、呼吸困難や誤飲時にはどのような処置を行うかの指導をしてもらいたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を行っており、消防署の方に来て頂き指導やアドバイスも受けている。地域においては地域の中で助け合えるようになるために、防災訓練等に参加している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態の変化に伴いこれから起こり得るリスクについてお話ししたりするが、ご家族の理解が難しく、何か起こった時にすべてホームのせいにしてしまうという事がある。精神的な面や認知症から起こり得るリスクについては出来る限り抑圧感のない、暮らしをして頂けるようスタッフ全員でも話し合い対応しているが、身体的レベルに関しては、介助の必要性が大きくなりその分リスクも伴ってきている。	○	出来る限りホームでの生活を支援していきたいが、多くの場面で身体介護が必要になってくる利用者に関しては、特養のような設備もなく、すべてスタッフの介助によるものになるため、よりいっそうのリスクもある。ご家族にリスクがある事を理解して頂く事が必要。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り時に報告したり、記録に掲載している。休み明けのスタッフも記録を参照することで情報は共有している。自分で訴えられる方はもちろん、我慢する利用者の変化に気付けるよう行動や発言にも気をつけながら常に目配りを行っている。	○	体調の様子を本人にすぐ伺う。衣類の汚れをチェックする。出来るだけ更衣時に身体面の異常などがないか確認する
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しいスタッフには簡単にはあるが口頭で説明すると共に、薬の効能書き等に目を通すよう指示をおこなっている。薬の管理、服薬確認は職員が行っているが、服薬拒否の入居者に対しての工夫が必要になって来ている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給に努めたり毎日行うすこやか体操と一緒に立ってしたり声かけしている。排泄記録表を作成し何日が便がでない時は下剤を服用してもらっています。その都度排泄の確認を行っている。低運動の人、食の細い人には出来るだけその意識を高めてもらう為声かけをしたり外出を促したりしている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の菌みがきや入れ歯洗浄の支援をしている。起床時、就寝時には歯磨き等の声かけ、援助しているが、昼食後は利用者によってしている人、していない人がいる。		

グループホームさくら

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分共に一人一人の摂取量を記入し把握に努めている。Drの指示や家族さんの要望も踏まえながら個々に応じた対応を行っている。体重の増減に気を付け週1度の体重測定もしている。水分摂取の少ない人には最後まで飲めるよう声かけをしたり、飲み物の内容を変えて水分を摂ってもらえるような配慮をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザに関しては予防接種を行っている。手洗い、消毒の励行を行い、手洗い後の消毒も欠かさず行っている。また、トイレも掃除の際には消毒液での消毒を毎日行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗い消毒をし、使い捨て手袋を使用して調理している。また、包丁やまな板、調理バサミ、布巾など夜間に消毒している。ヤカンやポットも汚れが目立ってきたら消毒をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	以前は外にプランターを置いてお花を並べたりしていたが、最近ではできておらず看板も劣化してきており、グループホームということがあまりわかってもらえないかもしれないが、夏祭りなどの行事の際には門をオープンにし誰でも出入りしやすい状況を作ったりと配慮はしている。	○	明るい表札をかかげたり何かワンポイントの目印を付けると良い。福祉施設である事を周囲の人たちに理解してもらえる様な看板を作る必要がある
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにソファを置き、食後等ゆっくりくつろげる場所を作っている。季節の花を飾ったり、季節に応じた室内装飾を利用者と共に作成し飾ったりしている。また、不快な音や光がもれないよう配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置を考えたりリビングにソファを置いてくつろげる場所を作ったり、またそこで常に2、3人が話せる憩いの場所になっている、2階には和室もありテレビ、こたつなどを置いて少し他者から離れた静かな空間になっており自分の居場所とし利用している方もいる。		

グループホームさくら

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使っていた家具などを持って来てもらうよう入居時にお話している。なじみの家具を置いてもらったり、家族の写真などを飾ってもらい、利用者が落ち着ける様配慮している。利用者によっては、衣類の出し入れが頻繁であったり物がある事で、物が気になってしまうという方においては必要な物以外はあまり置いていない利用者もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝掃除をする際には換気をし、空気の入替えを行っている。トイレや食べ物の臭いが残らないよう、常に換気扇を使用している。室温は差のないよう配慮しているが、利用者の個室においては、利用者本人が冷暖房を自由に調整する方もおり、利用者によっては室内の温度調節が難しい状態ではある。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中での動き(階段の上り下りなど)を行う事で身体機能のレベル低下を防ぐという意味においても、建物内はほぼ普通の家庭と同じであり、バリアフリーにはなっていないが、手すり等は設置し安全には配慮している。又、ゆったり座って休めるようにリビングや階段の踊り場にソファを置いたりしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	解かりやすい言葉を選んでの声かけや一人一人の出来るを導き出す為の環境設定をその都度行い、混乱や失敗を防ぎ、まだまだ自分で出来るという意識を持ってもらえるように配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花の苗を皆で買いに行き、植え替えをしたり、水遣りをしたりしている。又、家庭菜園(夏野菜)も行っている。天気の良い日には庭に椅子やテーブルを出してご飯を食べたり、お茶をしたりしている		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームさくら

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

スタッフに笑顔が多く入居者にも自然と笑顔が溢れ、笑顔や笑い声が多い。出来るだけ皆の笑顔が多く見られ、明るく毎日を過ごせるよう、心がけている。

また、一人一人についてよく知り、その人にあった個別ケアが出来るように取り組んでいる。